

## 第2回 合同会議

- 1 日時 平成30年5月17日（木） 15時～16時30分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校 図書室
- 3 参加者 旭川市立朝日小学校 三浦 一路, 福嶋 顕勝, 櫻井 啓子, 宮腰 唯導,  
石塚 泰鑑  
旭川市立知新小学校 増田 展明  
旭川市立新町小学校 伊月真由美  
旭川市立中央中学校 三上 貴也

### 4 内容

#### （1）研究内容についての共通確認

第1回合同会議で提案した研究内容について共通確認を行った。

##### 研究内容（1）

###### 「単元デザイン」

全教科，領域を対象にして，「習得－活用」を意図的に計画した単元づくりを行う。このことが思考アクティブ化シートAの汎用性を高めることにつながる。

- 授業を単元でとらえ，子供の思考の流れを生かした「単元デザイン」を考えるとともに，習得・活用と思考の深まりを大事にする。子供が得たものを活用する場を意図的に設定することにより，知ることと考えることのサイクルを確立する。

##### 研究内容（2）

###### 「子供自ら学びをマネジメント」

子供自身が「見通す」「振り返る」活動ができるよう工夫する。このことが，思考アクティブ化シートBの汎用性を高めることにつながる。

- 子供が自ら学びを実感できるパフォーマンス・シート等の「学習計画・評価」を工夫して取り組む。何のための学習なのか見通しをもたせることが大事。自分のゴールに向かう意欲をもたせ，その過程をメタ認知させることで目標に向かって自ら学びをマネジメントできるようにする。

#### <用語の整理と押さえ>

「小学校学習指導要領（平成29年告示）第3 教育課程の実施と学習評価」 1 主体的・対話的で向かい学びの実現に向けた授業改善（第1章第3の1の(1)）や「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）などを丁寧に読みながら，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」，「習得・活用」，「見方・考え方」などについての用語の定義と関係性について確認した。

また，岩田一彦氏による「知識」の分類と活用との関係，旭教研社会科研究部による知識と思考の構造化の例についての学習もした。



ALPS-wの研究の方向性として、「習得と活用」を意図的に計画した「単元デザイン」の重要性について確認をし、単元づくりについての各学校の現状に合わせ、これからどのようにして「習得と活用」を包括した単元デザインをしていくのか、子供が学びをマネジメントするための「見通し」「振り返り」についてどのように扱っていくのかなどを話し合った。

### ＜研究内容（１）について＞

- 単元の流れを考えると、算数では系統性を意識することも大事。各教科には特性がある。教える側は、子供の思考の流れを生かし、子供が主体的な学習というのを常に意識しなければならない。児童理解を基に単元構成をする。
- 単元デザインを考えると、習得－活用の組合せにはさまざまなタイプがあるが、獲得している知識・技能を基に活用するのが大事である。子供は何のために学んでいるのかを意識させ、活用することで、獲得した知をさらに単元の中で深く習得させる。
- 子供の学びの質を上げていくことも必要で、授業では関連付けを意図的にしていくとよい。思考をするときは根拠をもったものにする。授業の中でどういう知識を生かすのか、教師は意図的に考える。

### ＜研究内容（２）について＞

- 単元計画を子供たちと一緒に作っているかが大事なポイントになる。子供と授業を組み立て、プロセスが見通せるようにしていくと目指すゴールと自分の立ち位置が分かり、主体的な学習につながる。
- 学習計画を考えると、何が分かたら解決できそうなのかを子供たちと一緒に考える。授業を通して、日常生活の中でも解決の見通しをもてるようにトレーニングする。失敗したことを生かし、見方・考え方を働かせて問題を解決していく経験を子供たちにさせていく。

## （２）今後に向けて

- 習得と活用と探究のすべてが相互に関係し合っただけでスパイラル的に深い学びへとつながっていくため、習得と活用にも段階があった方がよいのではないか。
- 子供が自らの学びを意識するためのシートとなるために「学びを実感するシート」「マネジメント・シート」など名称を工夫していく。

## 5 実践推進教頭より

- 研究内容（２）の後半部分の思考アクティブ化シートBの扱いはどうするのかを検討しておく必要がある。
- 「学習計画等の評価システム」というような言葉が出てきているので、言葉として適切なものか、共通理解をした上で言葉を整理して提示していくことが必要である。
- 次の合同会議では、授業に入る一歩手前まで理論を構築していくようにする。
- 今年度のALPS-wの研究で重点すべきことは、「単元デザイン」と「見通し・振り返り」の２点であり、絶対に忘れないようにする。

## 6 今後の予定

- |          |              |           |         |
|----------|--------------|-----------|---------|
| 6月 8日（金） | 合同会議③        | 理論研究      |         |
| 6月27日（水） | 合同会議④        | 理論と実践をつなぐ | *朝日小6月研 |
| 6月28日（木） | 第1回推進地域連絡協議会 |           |         |